

「変人」

の素顔に迫る～

H-1 グランプリ 優勝者

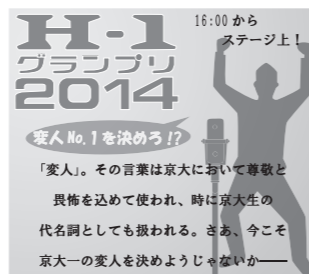
高倉 ニルス



H-1グランプリとは

昨年11月1日、中央キャンパス祭2014が開かれ、当日はたくさんの来場者でにぎわいました。その中でも最も盛り上がった企画のうちの1つ、変人揃いの京大の中で変人No.1を決める「H-1グランプリ2014」では、変人を名乗る強者たちが集いました。ステージ上で一人語りをする人、彼女を物理的に骨盤から作る人、某人気ゆるキャラの着ぐるみを着てほら貝を吹き始める人……。

変人ばかりの出場者の中で見事頂点に輝き変人オブ変人の座を勝ち取ったのは高倉ニルスさん。関西弁の流ちょうなドイツ人というキャラの濃い彼の素顔に迫るべくインタビューしてみました。



— まずH-1グランプリに参加した経緯を教えてください。

僕は今、人間・環境学研究科で修士をやらせてもらっているんですけど、中央食堂でご飯を食べていたら広告が置いてあって。それでH-1グランプリっていうのがあることを知りました。自分の中では出場を迷っていたんですけど、親友とわいわいしていたら、「今日、H-1グランプリの締め切りなんだけどどうする？」みたいな感じで。軽い感じでまあいっぺん応募してみるに越したことはないんじゃないかと思って、締め切り直前に出場を決めました。そこからはコントをやろうって考えていたので、その準備をするようになりました。

— そのコントはどのように考えたのですか？

コントに関しては高校時代、まだドイ

ツにいた頃に、日本人の友達に『ダウンタウンのごっつええ感じ』っていうテレビ番組のDVDを紹介してもらったんです。それがすごく面白くて、今でも自分の中で強烈に記憶に残っているんです。そんな経緯があって、コントやるんやったらその番組の中でやっていたネタがええんちゃうんかっていう結論に至って、特に印象に残っていた子連れ狼のコントをやらしてもらいました。自分の予想として、こんな顔やし、登場した瞬間「わー外人やん」、「わーウケるわー」みたいな風にウケればと思っていました(笑)。

— 日本について興味を持たれたきっかけを教えてください。

僕は小学校の頃からずっとサッカーをやっていて、小学校1、2年生ぐらいの頃に、たまたまテレビでサッカー日本代表の試合が放送されていたのを見かけました。日本代表が初めてワールドカップ

出場を決めた入れ替え戦だったんですけどね。僕はそれを見て、アジア人がサッカーしているのが珍しくて、めっちゃ熱心にボールを追いかけとるやんみたいな(笑)。それですごい興味深く思いました。それをきっかけに日本は一体どういう国なんやろうと思うようになったんです。当時は90年代半ばで、ネットもそこまで普及していなかったし、とりあえず近所の本屋さんに行って、日本でいうところの『地球の歩き方』みたいな本をいろいろ入手して、日本事情について基本的な知識を身につけていました。それを高校を卒業するまでの間ずっと続けていましたね。

— 高校卒業後は何をなさっていたのですか？

今は廃止されているんですけど、当時ドイツでは高校を卒業した男性は兵役の対象となっていて、軍隊にそのまま1年

間入るか、社会福祉活動をするか迫られてたんですね。それで僕は、軍隊はそもそも縁もゆかりもなかったの、福祉活動をしようかなと思っていました。その活動場所を決める際、日本に対する興味もありましたし、とりあえず欧州でも人口の多い街、デュッセルドルフに行ったら、日本人に会えるんじゃないかという期待もあったので、デュッセルドルフへ行くことを決めました。それで行って、一番最初にできた友達が日本人だったんですね。その人に日本人の方を何人も紹介してもらって、そこから人脈も広がって行って、日本へのなじみも深まってきました。

— そしてそのまま大学に？

そうですね。活動が終わった後にそのままデュッセルドルフ大学に入って、「ジャパノロジー」っていう、日本事情を総合的かつ俯瞰的に研究する学問を主専攻にしました。卒業後の進路については、日本で本格的に就職しようかと考えていて、ドイツで就職するつもりはあまりなかったんです。今まで口伝えでしか日本そのものを知ることができなかったの、とりあえず日本へ行って見て、最悪学生という形で日本に居続けるだけでもしてみたいと思っていました。そんな時日本政府が、支給型の奨学金を出しているのをネットで発見したので、それに応募しました。そして試験を受けた結果、なぜか知らないんですけどこんなふざけたやつが採用されることになって、今は国費で修士をやらせていただてる

次第です。いろんなものが上手く重なり合って幸運に巡り会ってここまで来れたんですよ、こんなふざけたやつが。周りにずっと助けてもらいっぱなしです。

— 念願叶っての日本ですが、日本での生活はどうですか？

日本人は社交的な場である程度の気遣いって一般常識としてみんな持っているじゃないですか。そういうところが好きですね。日本ではある程度の気遣いみたいなところがかなり保たれてるんで交際してて気持ちいいというか精神的に楽です。まあ根回しとか建前とか複雑なこともいろいろありますが(笑)。

— 最後に京大生にひとことお願いします。

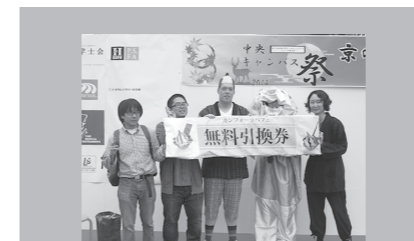
じゃあめっちゃ上から目線みたいな感じでいきます。諸君がんばれよ(笑)。京大って自由に自分のしたいことができる環境が整っていると思います。僕も心がけていることなんです、会社に入ったらがんじがらめになってしまうので、学生であるうちにその自由を存分に味わっていただきたいですね。

— ありがとうございます。



高倉 ニルス

1989年にドイツ・フランクフルトで生まれる。デュッセルドルフ大学を卒業後、京都大学大学院人間・環境学研究科に入学し、現在に至る。過去には内田篤人選手などの通訳を経験。



▲H-1グランプリの様子。中央でちょんまげのカツラをかぶっているのが、高倉ニルスさん